



森林総合研究所四国支所 公開講演会

四国の森林管理の未来を考える－広大な人工林の今後の取り扱いをめぐって－

- ・ 豪雨・急傾斜地に適した長伐期・収穫間伐による林業について議論を深める。
- ・ 土壌保全、高齢林、タワーヤードの作業・コスト・路網に関する研究事例を紹介し、経済性が高く森の健全性も保つことができる森林管理システムについて考える。

概要

四国地域では、人工林率が高く、急峻な山岳地帯・多雨地帯でもあることから、林業基盤未整備、育林・伐出コスト高、林地や道の崩壊リスクなど、不利な条件のものが多くみられ、すべての人工林を経済林として維持するべきか否かが問われています。成長量やコストなど採算性を考慮して効率的・持続的な木材生産が可能な人工林を選定する手法の確立が急務です。そのような人工林では、不利な条件下でも林地を保全しながら、コストを抑えて伐出や再造林を進め、収益を確保する高度な技術が要求されます。さらに、木材の利用を拡大し、効率的に使うことは収益の改善につながります。一方、木材生産よりも公益的機能へとシフトするのが得策と判定された人工林は、将来的には天然林へと復元することが望まれますが、その誘導技術は確立していません。

本講演会では、まず四国と類似した条件をもち、皆伐・再造林の先進地域である九州での先行研究を紹介し、それを受けて四国地域における今後の方向性を参加者の方々と一緒に論議を深めたいと思います。

当日は是非取材にお越しいただき、紙（誌）面、番組等でご紹介いただきますよう、よろしく願いいたします。

◎詳細は別紙チラシをご覧ください。

問い合わせ

国立研究開発法人 森林総合研究所四国支所 支所長 外崎真理雄

広報担当部署：森林総合研究所四国支所 連絡調整室

Tel : 088-844-1121 (代) Fax : 088-844-1130

Email : koho-ffpri-skk@gp.affrc.go.jp

この資料は、高知県政記者クラブへ配布しています。

